

論文番号 97

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Effect of alcohol consumption on systemic markers of inflammation.

飲酒が急性炎症反応のマーカーに与える影響

執筆者

Imhof A, Froehlich M, Brenner H, Boeing H, Pepys MB, Koenig W.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Lancet 2001; 357: 763-767

キーワード

alcohol, inflammation, CRP, albumin

要旨

背景

非飲酒や大量飲酒に比べて適量 (軽度から中等度) の飲酒は、虚血性心疾患のリスクを軽減させて総死亡率を低下させることが、多くの疫学研究によって指摘されている。この起序については未だ不明なことが多い。

方法

1987~1988年当時の西ドイツ国民健康調査に参加した18~88歳の男女2,006人を対象とした。7日間の食事記録調査から評価したアルコール摂取量と血中のC-reactive protein (CRP)、 α 1-グロブリン、 α 2-グロブリン、アルブミン、トランスフェリン、白血球数との関連を検討した。分析は全データが得られた男性781人と女性995人で行われた。

結果

年齢、喫煙、BMI、HDL・LDLコレステロール、高血圧の既往歴、教育、収入を調整しても、男性ではアルコール摂取量とCRP (線形検定では $P=0.65$ で有意差はないが、5つのカテゴリーに分けると $P=0.048$ で有意差あり)、 α 1-グロブリン (同様に $P=0.2$, $P=0.0006$)、 α 2-グロブリン ($P=0.82$, $P=0.31$)、白血球数 ($P=0.51$, $P=0.26$) はU字型の関連を示した。アルコール摂取量と急性炎症反応と負のマーカーであるアルブミン ($P=0.41$, $P=0.006$)、トランスフェリン ($P=0.14$, $P=0.28$) は逆U字型の関連を示した。女性では、CRP ($P=0.35$, $P=0.31$)、白血球数 ($P=0.28$, $P=0.15$)、トランスフェリン ($P=0.86$, $P=0.83$) に関しては同様の弱い関連を示した。女性では α 1-グロブリン、 α 2-グロブリンは飲酒量と負の相関を示し、アルブミンは飲酒量の増加に伴って上昇する正の関連を示した。

結論

非飲酒者と大量飲酒者は適量飲酒者に比べて血中CRP濃度が高かった。炎症のマーカー、特にCRPと虚血性心疾患の関連を考慮すると、アルコールの抗炎症作用が適量飲酒と低死亡率との関連に寄与している可能性が考えられる。